

ひまわり



令和2年7月9日(木)

豪雨災害

近年、「数十年に一度の大雨」が多くなっています。地球温暖化による気候変動が原因です。産業革命以降、人類は多くの二酸化炭素を排出してきました。二酸化炭素は温室効果ガスと呼ばれ、地球温暖化の大きな要因です。火力発電所や自動車から多く排出されます。温室効果ガスには、冷蔵庫などで使われるフロンガス、水田などから発生するメタンガスなどもあります。とりわけ二酸化炭素は、温暖化を急激に加速させています。また森林破壊は、植物の二酸化炭素吸収を妨げ、結果として温暖化の原因となっています。

先日来、各地の豪雨被害が報道されています。とりわけ九州地方は大災害に見舞われています。被害は北部にも拡大し、九つの河川が氾濫。死者は50人を超えているもようです。浸水した地域で、被災者が救難ヘリに救出されるようです。あふれ出した水に漂う自動車。氾濫した水の勢いで倒壊した家。これらの惨状をテレビで見た人も多いことでしょう。「引き裂かれた日常」です。

昨日の産経新聞では、被災地での救援活動のようすが写真で掲載されていました。足が悪く、自力で避難できなかった高齢女性を助けている消防団員。生後3週間の赤ちゃんを避難しているお母さんを支援する役場の人。雨が降り続く中、土砂の片づけをしている高校生。救助した生後2ヶ月の赤ちゃんを抱いている自衛隊員。多くの人が、救援活動に関わっていることが分かります。

皆さんには、次の2つの視点で今回の災害について考えてほしいと思います。

長期的視点として

地球温暖化の進行速度を遅らせるために、自分には何ができるか考えてみましょう。

目の前のこととして

被災された方々に対し、皆さんにはどのような支援ができるでしょうか。

さまざまな事柄について深く考えることは、これらからの時代を生きる皆さんにとって、とても大切なことなのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

